

2018年9月21日 第3260回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 北村 会長
<斉 唱> 「それこそロータリー」
<ゲスト紹介> *観音崎自然博物館 館長 河野 えり子 様
*通訳 高橋 栄子 様
*米山奨学生 金 穂 勅 様
<記念品贈呈> *財団大口寄付メジャードナーレベルII 長尾 会員
<会長報告> *
<委員長報告> *ローターアクト委員会 八巻委員長より

ローターアクト地区年次大会が12月2日に三浦学苑にて開催されます。
皆様のご参加をお待ちしています。

- <幹事報告> *10月26、27日の移動例会の参加申し込みをお願いします。
*移動例会に向けて10月5日例会終了後、親睦委員会で打合せを行います。

- <出席報告> *出席委員会 福西委員長より9月21日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
121名	105名	71名	34名	2名	69.52%

<ニコニコ報告>

- ・三 役 観音崎自然博物館 館長河野えり子様、ようこそいらっしゃいました。本日の卓話よろしくお願ひ申し上げます。
- ・梁井、福西、瀬戸、山口、杵淵、中村、田邊、菅野、高橋、勝間、濱田、澤田、若麻績、藤村、前川、根岸、Enora、新倉、新倉、長尾 各会員
観音崎自然博物館 館長 河野えり子様ようこそお越しくださいました。本日の卓話楽しみにしております。
- ・高橋 会員 子供の頃より遊び場でした観音崎自然博物館を、本日皆様にご紹介出来ます。河野館長よろしくお願ひします。
- ・福島 会員 館長、お話を聞きにきました。楽しみにしております(須田)
- ・前川、佐久間 両会員 米山奨学生 金穂勅さんようこそお越しくださいました。どうぞ例会をお楽しみください。
- ・大野 会員 誕生月祝いとして
- ・鈴木、大野 両会員 入会月祝いとして
- ・高橋 会員 江沢先生「夢創展」への大作『迅雷』出展おめでとうございます。奇抜さに目を見張りました。
- ・鈴木、松本、小平、上林、中村、岩瀬、澤田、岡田、平田、鹿島、角井 各会員
今日は大坂なおみに因んで「カツカレー」です。スポーツの秋。テニス始めませんか。
- ・加藤 会員 セリーグクライマックス4チーム?ベイスターズ確定かな~?

<卓 話> 「横須賀の海の海藻」

観音崎自然博物館
館長 河野 えり子 様

こんにちは。河野えり子です。今日はよろしくお願ひします。私は長野県で生まれ育ちました。周りはリンゴの畑や農家ばかりで、田んぼや畑で遊んでのびのびと育ちました。子供のころから虫を見たり捕ったりするのが大好きでした。また、田んぼの小川で魚を見たり捕まえたりするのも好きでした。そのように水とか小さな生き物が好きで「海っていない」と思っているうちに、この横須賀に流れ着き30年が経ちました。



私が勤めている観音崎自然博物館のすぐそばのたたら浜は、貝殻でできた砂は白く、水はエメラルドグリーンです。県内で一番きれいな砂浜であろうかと思ひます。そこには今

や貴重な存在となっている岩礁海岸があります。観音崎の森からの栄養が海に流れ込むためか生物も多くいる豊かな海で、博物館では春から夏に磯の生物観察会を開催することができます。

今日はそのような海に生えている海藻のお話をします。

横須賀の海は海藻が豊富で150種類ほどが確認されています。たたら浜でも100種類近くが確認されています。たたら浜は東京湾内湾と外湾の境界線上にあり、内湾性のものと外洋性のものの両方が見られます。

陸上の動物にとって植物は無くしては生きていけません。それは海の中でもいっしょで海藻は木や草と同様の役割を果たし、小さな生き物の暮らしを支えています。岩場は夏は背の低い紅藻類に覆われて赤々とし、冬は褐藻類で茶色になります。陸地では草花や木々の芽吹きを楽しむように、海では海中の森や草原を散策する楽しみがあります。

その中で今日は食べられる海藻、きれいな海藻、生き物のすみかや餌になる海藻について写真とともに紹介します。そして横須賀の海の豊かさを伝えたいと思ひます。

<食べられる海藻>

- ・ワカメ 三浦半島によく生育する食べる海藻の代表格
 - ・ヒジキ 三浦半島によく生育するが近年減ってきている
 - ・マクサ 寒天の原料のテングサの仲間
 - ・アマノリの仲間 紅藻類でいわゆる「海苔」の原料
 - ・アカモク じゃまな海藻であったが、近年は健康に良いと話題になり食用とされている
 - ・ハバノリ 岸近くの岩場に生える、ほとんど流通していない
- のりの仲間はたくさんあるが、食べられるものは少ない

<きれいな海藻>

- ・フサイワヅタ 海ぶどうの仲間、緑色が美しい
- ・カエルデグサ 海の中では青っぽく光る、5cmほどの小さな海藻
- ・ヒラワツナギソウ 緑色の蛍光色、自然界の色とは思えない
- ・スギノリ 浅いところでも見られる、青く光る
- ・ユカリ その名の通り紫に近い色合い、枝葉細かく分かれ繊細な美しさ

<小さな動物のすみかや餌になる海藻>

- ・ハリガネ、マクサなど細かい枝や、アラメ、ワカメなどの細かい根
ワレカラ、ヨコエビ、ヘラムシ、コツブムシ、カニの仲間、巻貝の仲間、イソメ、ウズムシなど小さな生き物がたくさん付く、ワレカラは枕草子にも登場する
- ・アオサ類 アメフラシが付き餌にする、イソギンチャクが付く

- ・ホンダワラの仲間 小魚の隠れ場所、タツノオトシゴやカワハギの仲間などが見られる、イカの仲間が卵を産む
- ・フサイワヅタ タマミルウミムシが餌にしている

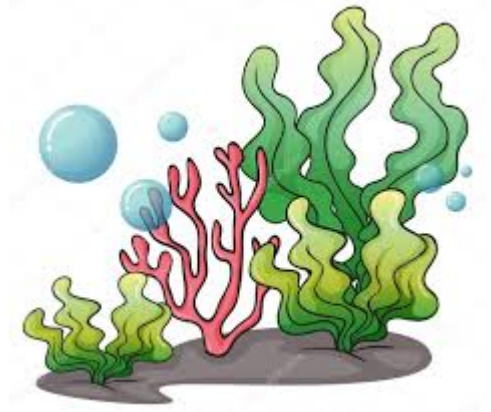
海藻のお話は以上です。

私は博物館の仕事の中で、海に行く仕事が一番好きです。特に子供たちの体験学習で「水がしょっぱい」とか「これなあに？」とか「触って良いのか？」とかいうのに付き合っワイワイするのは楽しいひと時です。ただ最近子供たちでも岩に捕まって歩けないとか、海辺に打ち上げられた海藻に群がるコバエが嫌で近づけないとかいうことがあるのでこれは困ったことだと思っています。さらに「大丈夫だよ」と言ってあげなければならない大人も「虫いやだ」と言ってしまうこともあり、これは大人から自然に慣れなければ困ると思っています。

私たちは大人にも子供にも、自然の中での節度ある過ごし方や楽しみ方を伝えていければよいと思い日々活動しています。自然に親しむことは重要ですが何をやってもよいというわけではありません。そして本来身近であるはずの海に、本当の親しみを感じてほしい。さらに環境保全と海の利用の両立ということにつなげていければと思っています。

これで私のお話はおしまいです。どうもありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 北村 会長



週報担当 小平 一穂